

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足立 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能の「漢字を正しく書くこと」や「主語と述語の関係を捉えること」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の区分で全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の区分で課題がある。
	よくできた問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題。
	努力が必要な問題	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	思考・判断・表現の「数と計算」の区分では、全国平均を上回っている。「データの活用」「図形」の区分で課題がある。
	よくできた問題	わる数が小数の時、わる数と商の大きさの関係について理解しているかどうかの問題。
	努力が必要な問題	二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
○「ICT機器を毎日使用する」子どもが多く、8割の子どもが「タブレットを楽しみながら使って学習を進めることができる」と答えている。 ○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」や「学校での授業が自分に合った教え方になっている」と答える子どもが8割を占めており、算数科を中心に、全学級、複数による指導体制を整えている成果と考える。 ○「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と答える子どもが多い。本校で重点化して取り組んでいる人権教育やクラスの友達や異学年の良さや感謝の気持ちを伝える「わたしが見かけたちょっといい話」の取組の成果と考える。 ○「週末の一日あたりの学習時間」が全国平均を大きく下回っている。低学年の頃から家庭での学習習慣の定着を図るためにも、自分で創意工夫できる自主学習や成果を実感できるような課題、学習意欲を高めながら継続的に取り組めるような宿題の出し方に、工夫が必要だと考える。 ○「友達関係に満足している」と答えた子どもが全国平均を若干下回っている。単学級ならではの良さもあるが人間関係の固定化等も原因と考えられる。今後も、子ども達の様子について理解ある加配教員や養護教諭をはじめ、全職員が一丸となって、一人一人の子どもの小さな仕草や表情にも細かく目を向け、「チーム足立」として子ども達と積極的に関わっていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○確かな学力を身に付ける取組の一つとして、今後も継続して毎朝15分間の計算力や言語力をつける補充学習を行っていく。 また、小さな積み重ねを大事していく中で、子どもが達成感ややりがいを得られるように、計算コンクールや自主学習コンクールを積極的に取り入れていく。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

○毎朝、元気に子ども達を学校に送り出してくれる保護者の方々に感謝の気持ちを伝えるとともに、朝、起きずに登校が遅れてしまう家庭には、規則正しい生活習慣の大切さを伝えるとともに、協力を呼びかけていく。 ○学校だよりやほけんだより、保健指導や食育指導を通して、健康に気を付けたり生活リズムを整えたりすることの大切さを啓発していく。
